



ミヤマカワトンボ

かわはく No.20

CONTENTS

連携企画展「水辺の昆虫 トンボ」	2
かわはくの展示から「荒川の昔話」	3
かわはくを支える人たちⅣ	3
川辺の生き物百科No.9「ヨシ・アシ」	4
博学連携チームによる学校対応の活性化をめざして	4
川の思い出	5
わくわくサタデーミュージアム	5
身近な水紀行「仙波河岸史跡公園」	6
アンケートおよび来館者統計調査から	7
かわはくで学ぼう	8



連携企画展「水辺の昆虫 トンボ」

開催期間：平成16年7月17日～9月26日

トンボと聞くと何を思い浮かべるでしょうか。あ
る人は、夕焼け空を飛ぶ赤とんぼや池の上をさっそ
うと飛ぶギンヤンマを、あるいは蜻蛉釣りの思い出
や「赤とんぼ」の童謡を思い浮かべるかもしれませ
ん。トンボは、私たち日本人にとって最も親しまれ
てきた昆虫の一つです。トンボはすべての種が、幼
虫時代は水中で成虫は陸上で生活するという生活様
式をもった、水と関わりの深い昆虫です。豊かな水
に恵まれた日本列島はトンボが豊富な場所でもあり
ます。この展示では、トンボを通して自然の多様性
や水環境について紹介します。展示の概要は、埼玉
県立自然史博物館発行の「自然史だより54号」に
載せましたので、ここでは身近なトンボの「赤とん
ぼ」について紹介します。

アカトンボというトンボはいない

実は和名（日本での学術的な呼び名）で「アカト
ンボ」というトンボはいません。「赤とんぼ」はグ
ループの名前で、日本には20種ほどが分布してい
ます。アキアカネやナツアカネ、ミヤマアカネなど
が代表的な種ですが、埼玉県ではこれまでに13種
が記録されています。

「赤とんぼ」といっても、全ての種が赤いわけ
ではありません。また、オスは成熟すると赤くなるも
のが多いですが、メスは赤くなるとは限りません。

避暑旅行

「赤とんぼ」の代表種のアキアカネは、避暑をす
るトンボとして有名です。平地の池や沼、水田で6
月ごろに羽化します。このころのアキアカネは体が
柔らかく、色も黄色で、羽化後すぐに高い山へ移動
していきます。夏の間は山の上で過ごします。この
間に体重が2～3倍程度に増加し、しだいに赤くな
りますが、性的には未熟なままです。9月上旬くら
いから、いわゆる「赤とんぼ」の大群になって故郷
の平地へと戻ってきます。ただし、これは本州以南
での現象です。また、本州でも高地への移動をしな
いものなど、その生活史に多様性があります。

この移動は、夏の暑さを避けるためと言われてい
ますが、違う理由ではないかという意見もあります。
また、埼玉県内のアキアカネは、どこに行き、ある



代表的なアカトンボ

左上：アキアカネ

右上：ナツアカネ

右下：ミヤマアカネ

左下：ノシメトンボ

いはどこから来るのかははっきり分かっていません。
まだまだ謎があります。

田んぼとの関わり

日本にはいたる所に水田がありますが、ここは
「赤とんぼ」の重要な生息場所となっています。身
近な環境だけに、ここに生息するトンボ類はどこ
にでもいる種として繁栄してきました。最近では、
社会情勢の変化からか、田んぼでみられるトンボ類
も少なくなってきました。

「赤とんぼ」の移動や生息状況の全国一斉調査が
行われています。この調査についても展示します。
あなたの回りにどんな「赤とんぼ」がいるか、調べ
てみませんか。

今回の展示は、埼玉県立自然史博物館、さいたま
川の博物館、特定非営利活動法人むさしの里山研究
会が連携して実施するものです。

(埼玉県立自然史博物館 動物担当 中村修美)



～かわはくの展示から～

荒川の昔話

ワークショップの向かって右側に、ピラミッドを思わせる四角錐のものが 있습니다。これは、4面それぞれに埋め込まれたモニターから同一の画面が見られる視聴覚機器のひとつです。

モニターから流れているのは、荒川流域に伝わっている昔話に関連するアニメーション映画です。以前、どこかの民放テレビ局で放映されて多くの人を感動させた民話に取材したアニメ映画番組が有名になったことがありますが、良質なアニメ映画は人をほのぼのとさせつつ幼児にもたやすく理解できるところに特長があります。

見られるのは、次の10本の作品です。

①^{おおち}大血川（秩父郡大滝村・2分30秒）②^{てびつ}手櫃ヶ淵（秩父郡荒川村・3分45秒）③^{じゃ}蛇ぐえ（秩父郡荒川村・3分15秒）④^{かつば}河童の証文水（秩父郡小鹿野町・2分35秒）⑤^{さわおんな}沢女（秩父郡皆野町・2分54秒）⑥^{さん}産ヶ淵（秩父郡皆野町・2分37秒）⑦うぐいすの瀬（大里郡川本町・2分33秒）⑧大うなぎ

（熊谷市・3分09秒）⑨^{ひとばしら}人柱になった娘（北本市・2分56秒）⑩^{きつね}狐に化かされた話（戸田市・2分27秒）。

これらの作品を開館時点から閉館までエンドレスで流していますので、椅子にゆっくりと腰掛けて、お楽しみください。地元につながる意外な昔話に出会えるかもしれません。また、同じ内容のビデオを荒川情報局でも見ることができます。

（展示担当 針谷浩一）



展示室内の状況（右奥は、荒川の祭りコーナー）

かわはくを支える人たち IV

当館で働く多くの人々の中で、直接お客様に携わっているのがプレイリーダーです。ご来館なされる方への様々な対応はもちろんのこと、安全面に関する施設の不備や故障箇所の指摘など細かな心配りをしてくれています。村田敏子さん、荒木絹世さん、高橋真由美さんを中心に総勢27名で運営しています。

今回は代表の方に日頃感じていることを語っていただきました。

Q 毎日どんな仕事をしているのですか？

A 私たちプレイリーダーは、ご来館いただいたお客様に荒川のことを、より深く理解していただくために館内では、展示の説明や鉄砲堰や荷船など各イベントの実演等をしています。外の施設では、荒川わくわくランドにおいて、お子様を対象としたウォーターアスレチックで水の科学を学びながら安全に楽しく過ごしていただけるようご案内しています。

Q 仕事のやりがいは何ですか？

A この仕事をしていて一番良かったと思うことは、お客様の多くの笑顔に出会えることです。「楽しかったよ。」「また来るよ。」と声をかけてくださるたびにまたがんばろうという気持ちになります。

少しでも皆さんの思い出づくりのお手伝いができるよう、川の博物館の顔として、明るい笑顔と親しみのある対応を心がけていきます。



プレイリーダー活動の様子 総合案内にて



川の生き物百科

No.9

ヨシ・アシ

Phragmites communis

(イネ科)

「ヨシ」と「アシ」とは、違う植物ですか？ 植物観察会でよく耳にする質問です。植物学的には同一で、古くはアシとよばれたものが、「悪し」につながるためヨシ「善し」とよばれるようになったといわれています。「スルメ」のことを縁起をかついで「アタリメ」と呼ぶのと同じことです。

「ヨシ」は日本全国に広く分布し、8月～10月にやや紫色を帯びた穂を出し花をつけます。地下に深く根を伸ばし、水辺や湿地に群生して繁殖します。荒川流域でも、下流域の岸辺などに大きな群生地を形成しているのが見られます。

ヨシ原の中には、オオヨシキリや水鳥、またはカヤネズミなどの巣があり、彼らの重要な繁殖地となっています。「ヨシ」の若芽は食用として、生長した茎は、「すだれ」「すのこ」「よしず」や茅葺き屋根の茅、そして和楽器の笙^{しょう}として、昔から広く利用

されてきました。さらに、最近では、「ヨシ」を水質浄化に利用しようという研究が進められています。

(教育普及担当 寺尾好夫)



博学連携チームによる学校対応の活性化をめざして

博学連携事業

今年度より当館では、博学連携チームを特設しました。主なねらいは、学校利用をさらに推進することです。学校の先生方の計画づくりの相談を受けたり、博物館で作成した体験学習の内容を、学校の教育課程にそったものに検討したりして、受け入れ体制の強化を図っています。

主な体験学習のプログラムとして以下のものが、

準備されています。

また、学校支援物品も充実させています。ぜひ、博物館利用の機会を検討して頂きご相談ください。詳細は、<http://www.river-museum.jp/> をご覧ください。

(教育普及担当 福島 智)

水の大切さ、不思議さを体感しよう	川原の自然を観察しよう
1 川と環境～水質を調べよう～	1 川原の昆虫観察
2 水生生物による水質判定	2 川原の石のコレクション
3 水圧の不思議	3 流水によりつくられた様々な地形
4 すがたを変える忍者「水」	4 川や土の中のミクロの世界を探ろう
5 表面張力の不思議	
6 細いすきまを上げる水	



川の想い出(1)

ーハヤ釣り3態ー

館長 梅沢 太久夫

私の家の裏には槻川が流れ、そこには水車の堰が築かれていた。堰の上流は緩い流れになっており、石垣の上から「竹竿のテングスに針を付け、蠅を引っかけてだけ」の釣り糸を流すと面白いように大きなハヤがつれた。堰下には大きなウロができており、そこをすみかとする大きなハヤやヤマメがいたが、上流のハヤを釣る仕掛けではさっぱりで、テングスに鶏の羽を目印に付け、川虫やミミズを餌に静かに丁寧に釣らなければならなかった。ヤマメは素人の子供には殆ど釣果は期待できるものではなかったが、浮きをつけて待っていると大きなハヤは釣ることができた。堰を少し離れた下流には瀬ができてお

り、そこでは上流で使った釣り竿と仕掛けで、水の中まで竿を持つ手を入れて、流れにそって上下に竿を動かすと、ハヤが良くかかったものである。餌には川虫（くろかわ）、チョロ虫、石倉、ミミズ、蜂の子を主に使用した。仕掛けは子供の遊び用のものが1袋（テングス3m位、針、糸巻き、玉浮、錘）10円位で売っていたが、お金が無い時には木綿糸、錘は絵の具の空きチューブなどを使用したものである。

しかし、今その堰も無くなり、一面葦が茂り、ハヤは小さくなり、数も全く少なく、川で魚釣りをする子供たちの姿も見られない。(続)

「遊んで、学んで、楽しんで」

～わくわくサタデーミュージアム実施中～

わくわくサタデーミュージアムは、県立の博物館や資料館が土曜日に開いている、子どもたちのための体験型学習プログラムです。さいたま川の博物館では、「遊んで、学んで、楽しんで」を合い言葉に、川や水に関わりのある題材を選び、様々な体験的な学習やものづくりを行っています。第4回、第6回のわくわくサタデーミュージアムでは、267人の方に参加していただき、「竹で水鉄砲をつくろう」を実施しました。水鉄砲をつくるとき、押し出し棒につけるすきまテープの量をうまく調節しないと、水は前に飛ばず逆噴射してしまいます。参加者の皆さ

んは、試行錯誤しながら調節し、より遠くへ飛ぶ水鉄砲をつくりました。完成後、テラスで的当てゲームをして、遊びながら水の力を考えました。



これからの事業計画は次のようになっています。皆さんも一緒に「遊んで、学んで、楽しんで」発見と感動を味わいましょう。

(教育普及担当 関根光男)

回	開催日	タイトル	費用	回	開催日	タイトル	費用
9	9月4日	川原の昆虫観察	無料	15	12月11日	水の模様を絵にしよう	無料
10	9月18日	水車であそぼう	無料	16	1月22日	不思議な船をつくろう ～ぼんぼん蒸気船～	200円
11	10月9日	草木染めでハンカチづくり	200円	17	2月12日	手づくり望遠鏡で野鳥観察	300円
12	10月23日	秋の押し花カードをつくろう	100円	18	2月26日	不思議な氷の世界	無料
13	11月13日	不思議な船をつくろう ～しょうのう船～	100円	19	3月12日	砂絵をつくろう	100円
14	11月27日	きれいな葉脈カードをつくろう	100円	20	3月26日	ストーンペインティング	無料



河岸の歴史を伝える「仙波河岸史跡公園」

川越と江戸を結んだ新河岸川^{しんがしかわ}。城下町川越の歴史を語る上に、この川の舟運はなくてはならない存在でした。無数に蛇行しているため九十九曲がりとも呼ばれた新河岸川には、江戸時代に20か所もの河岸が点在し、物資の輸送や人の乗り降りでにぎわっていました。

明治2年、この川の最上流に新たに1つの河岸が開設されました。仙波の地にできたので仙波河岸と呼ばれ、川越の市街地に最も近い河岸として栄えました。岸边に置かれた問屋（回漕店）では、さまざまな物資を取り扱っていました。川面には何艘もの舟が浮かび、問屋周辺は人と荷車でごったがえしていたものです。

しかし、新河岸川の舟運は、大正時代になって東上鉄道（現在の東武東上線）が開通すると、大きな打撃を受けることになりました。さらに河川改修によって川が直線化されると、水量が減って舟の運航に支障が出るようになり、昭和6年、ついに終止符が打たれました。

それから70年、仙波河岸の跡地は荒れるに任せていたのですが、川越市では公園にするため用地を購入し、平成13年度から3年計画で整備を進めました。幸い周辺には緑豊かな自然が残されていたため、歴史を伝えるとともに自然に触れることのできる史跡公園として今年5月にオープンとなりました。

場所は川越市仙波町4丁目、東武東上線川越駅から徒歩約20分のところです。川越の市街地は武蔵野台地上に開け、台地の末端部は緩やかな崖となっており、その先の水田地帯に続いています。仙波河岸はこの崖下からわき出る豊かな水と、付近を流れる水路の水を集めて開設されたものです。なかでも一番

の湧水は「仙波の滝」と呼ばれ、そばに茶店ができるほど憩いの場になっていました。

しかし現在、この湧水はまったく涸れてしまっています。かつて畑だった台地上が宅地化されたことと、そばを通る国道16号が大きく影響しているようです。そのため、公園内では水を人工的に循環させ、「仙波の滝」を復元することになりました。ただ、取材に訪れたときには空梅雨のせいか全体に水量が少なく、残念ながら滝は干上がっていました。

河岸のあった辺りには、水辺に木製の休憩デッキが設けられ、地元の小学生たちがザリガニ釣りに興じていました。湧水のあったころはサワガニもいたのですが、今は水はにごり、ザリガニの天国になっています。

しかし、園内にはケヤキをはじめとした木々が繁茂して木陰をつくり、湿地には珍しい湿性植物も根を下ろしています。子どもたちが去ったあとには静けさが訪れ（国道の騒音は消せませんが）、ベンチで憩う人の姿がありました。

茶店の子孫でもある井上^{すずむ}迪さんに話をうかがってみました。井上さんは、仙波河岸の調査と湧水の復元に意欲を燃やしています。小さい頃にはまだ舟もたくさん見ることができたし、「仙波の滝」の下では染め物業者が糊落としさえていました。滝の落ち口には俱利伽羅竜^{くりかりゅう}の石仏と水神様^{みづかみ}の祠があり、いかにも信仰あつい場所だったことを物語っていたとのことです。

史跡公園というのは県内でも珍しいものです。ただ、自然に親しむことが重視されている反面、肝心の歴史の扱いが不十分であると感じました。

（教育普及担当 大久根 茂）



河岸跡に作られた休憩デッキ



湿地をめぐる遊歩道



川の博物館来館者の平成15年度アンケート

および来館者統計調査から

当館では2箇所にアンケート用紙を配置し、展示への感想や御意見を伺い館運営に役立てています。今回はアンケート調査結果からみた来館者の動向と学校団体利用の状況について紹介します。なおアンケートは492人から回答を得ました。

G1～5により来館者の動向を分析すると県内者が8割以上で、30～40代の親とその子どもの家族連れが多く、ほとんどが車で来館していることが分かります。アンケート回答者からみた動向ですが、普段の実態観察から想像すると子どもは小学生かそれ以下が多いようです。なお回答者は10代以下が全体の半分以上（15は年度63%）なのは学校団体（小学生）の割合が多いことと関連すると思われます。

アドベンチャーシアターや荒川わくわくランドが楽しかったという割合が高かったのも（74～77%）その表われと考えられます。G7も子ども連れ家族の願いの反映と思います。特別展を望む声が多いの

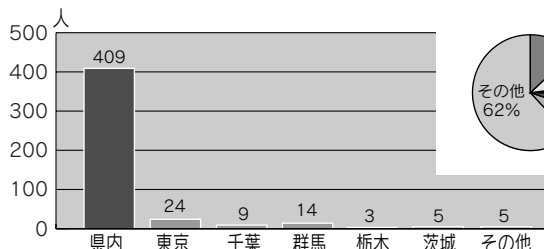
は50歳代以上に多いようです。

このアンケートは平成10年度から行なっていますが毎年ほとんど同じ傾向を示しています。回答者からみた結果ですが普段の観察から来館者全体の実態にかなり近いのではないかと考えられます。なお当館のホームページで展示への感想を含めた調査結果全体のグラフを掲示していますので御覧下さい。

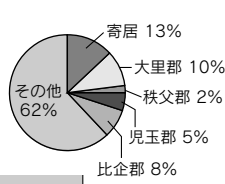
G8・9は県内小学校の地区別来館状況です。全（公立）小学校828校のうち275校（33.2%）、人数では全児童404,690人のうち23,657人（5.8%）が来館しました。全県から来館していることがわかりますが、地区別割合のばらつきがあります。交通事情の理由も大きいとは思いますが川の博物館の魅力について案内・紹介を強化し、知名度を上げることによりまだまだ来館校が増えると考えています。ホームページの充実や広報の強化などをさらに進めていきたいと思っています。

（副館長 小久保徹）

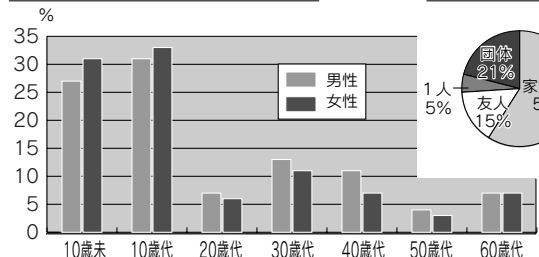
G1 回答者の住所



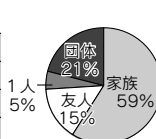
G2 県内



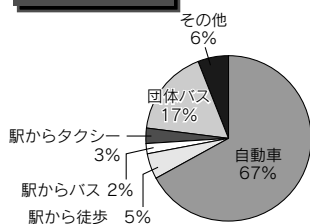
G3 回答者の年齢・同行者



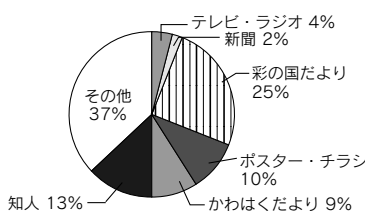
G4 同行者



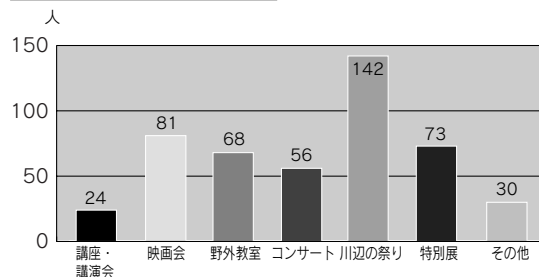
G5 交通手段



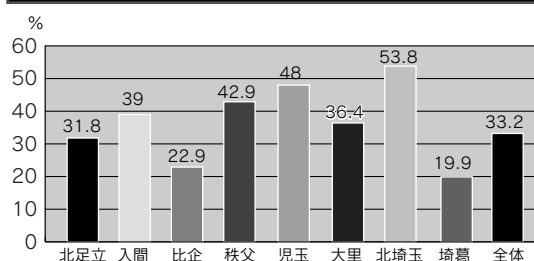
G6 川博を何で知ったか



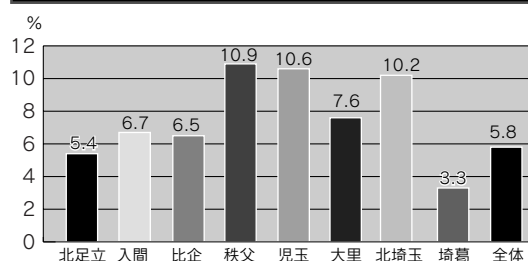
G7 今後望まれる事業



G8 地区別来館小学校割合（校数/地区総校数）



G9 地区別来館児童数割合（入館数/地区総児童数）



8月

1/月 水の日記念イベント「利き水大会」

時間：①10：30～ ②13：30～

8/日 かわはく夏祭り

時間：10：00～16：30

内容：ジャンボスライダー、体験教室など
ライトアップ18：30～20：00

8/日 トンボの身体検査（自然史博物館で実施）

時間：①10：30～12：00 ②14：00～15：30 定員：32人 ☎

24/火・25/水・27/金 子ども体験スクール(自然史博物館連携事業)

24/火・25/水 「川の石しらべ」

内容：川の石しらべ 時間：13：00～15：00

場所：24日は当館、25日は自然史博物館 ☎

27/金 「伝統漁法体験」

時間：10：00～14：00～ 定員：50人 費用：保険料100円 ☎

23/月・25/水 利用促進研修会

定員：32人（申込順）内容：小中学校の教員を対象とした体験研修

7/17/土～9/26/日

自然史博物館連携企画展
「水辺の昆虫 トンボ」



9月

4/土

サタデーミュージアム「川原の昆虫観察」

時間：①10：30～12：00 ②14：00～15：30 定員：32人 ☎

11/土

映画会「魚が空をとんだよ」(25分)

時間：①13：30～ ②14：30～ 定員：80人

12/日

ボランティア養成講座

時間：10：00～16：00内容：展示解説ボランティア登録説明会 ☎

12/日

トンボ公園を訪ねる

時間：①10：00～15：00 定員：50人（抽選）費用：100円

集合：東武東上線男会駅前 申込先：自然史博物館 ☎

15/水・17/金

教員のための環境学習講座（立正大学共催）

時間：10：00～16：00 場所：立正大学 ☎

18/土

サタデーミュージアム「水車であそぼう」

時間：①10：30～12：00 ②14：00～15：30 定員：32人 ☎

19/日

荒川ゼミナール「荒川流域の古墳」

講師：塩野 博氏 時間：13：30～ 定員：80人 費用：無料 ☎

26/日

ボランティア展示解説研修会 ☎



かわはくで学ぼう!!

イベント情報コーナー

10月

10/9/土～11/28/日

特別展「ナマズ・鯰・なまず大集合」

2/土 映画会「那須疎水物語」(20分)

時間：13：30～ 定員：80人

9/日

サタデーミュージアム「草木染めでハンカチづくり」

時間：①10：30～12：00 ②14：00～15：30

定員：32人

10/日・11/月

鯰釣り大会1・2

時間：①13：30～ ②15：30～

場所：宮川 定員：30人（申込順） ☎

17/日

荒川ゼミナール「鎌倉街道と荒川」

講師：福島 正義 氏 時間：13：30～ 定員：80人 費用：無料 ☎

19/火

教員のための環境学習講座（立正大学共催）

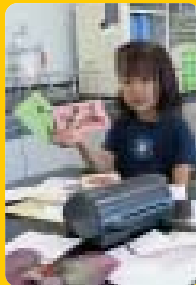
時間：10：00～16：00

場所：三芳町三富地区周辺

23/土

サタデーミュージアム「秋の押し花カードをつくろう」

時間：①10：30～12：00 ②14：00～15：30 定員：32人 ☎



11月

3/水

鯰料理を食す

時間：10：30～12：30 場所：レストランじゃぼに

定員：30人（申込順）費用：実費 ☎

3/水

講座「鯰の話」

時間：13：30～15：00 場所：ふれあいホール ☎

6/土

映画会「がんばれスイミー」(26分)

時間：13：30～ 定員：80人

13/土

サタデーミュージアム「不思議な船をつくろう」

時間：①10：30～12：00 ②14：00～15：30 定員：各32人 ☎

14/日

県民の日イベント

時間：①10：00～16：30

内容：ペーゴマ、オリエンテーリング、コンニャクづくり、映画会など

21/日

荒川ゼミナール「江戸と荒川下流～自然と生業～」

講師：安藤 義雄 氏 時間：13：30～ 定員：80人 費用：無料 ☎

27/土

サタデーミュージアム「きれいな葉脈カードをつくろう」

時間：①10：30～12：00 ②14：00～15：30 定員：各32人 ☎



原則として毎月第1・3土曜日（10月以降は第2・4土曜日）10：30～と14：30～は「わくわくサタデーミュージアム」、第2土曜日（10月以降は第1土曜日）13：30～は「映画会」が開かれます。最新の情報は彩の国だより・かわはく情報等で紹介されます。

ホームページでも紹介しています！

<http://www.river-museum.jp/index.htm>

【お願い】①行事は都合により変更になることもあります。ご了承下さい。②☎印のついた行事は事前申込みが必要です。電話またはFAXでお申し込みください。③定員になりしだい締め切ります。④川の情報もお寄せ下さい。

■編集・発行

さいたま川の博物館

〒369-1217 埼玉県大里郡寄居町大字小園39番地

TEL/048-581-8739(学芸) FAX/048-581-7332

R100

PRINTED WITH
SOY INK



彩の国さいたま

2004年7月20日発行